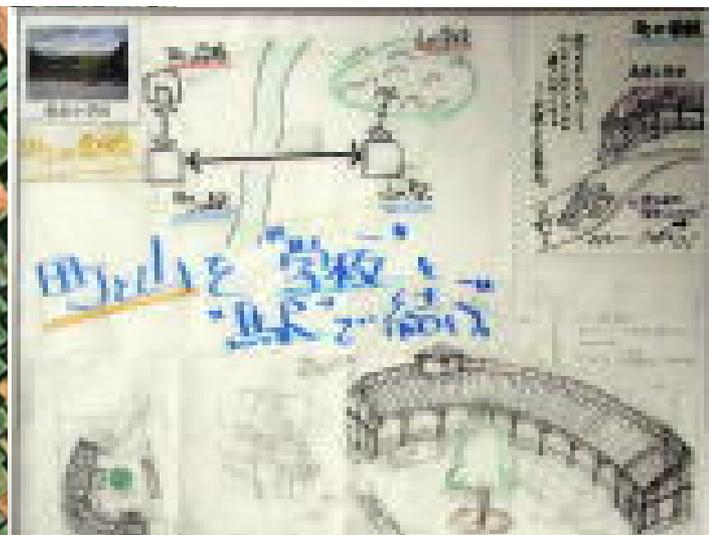


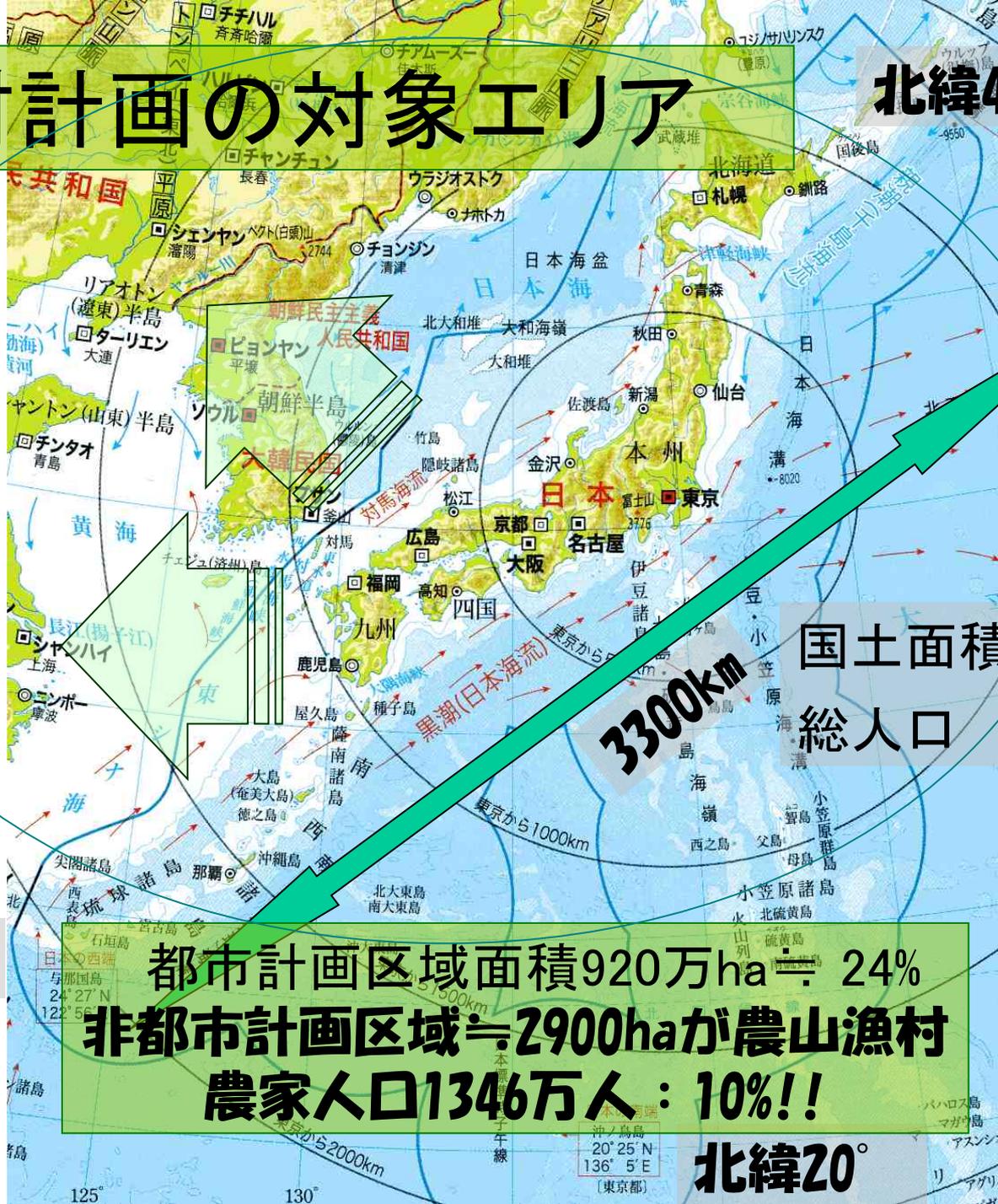
2006-07年度農村計画委員会活動報告



国土保全の要 日本を守り育てる農山漁村

農村計画の対象エリア

北緯45°



国土面積 3,778万ha

総人口 12,770万人

東経123°

都市計画区域面積920万ha ≒ 24%

非都市計画区域 ≒ 2900haが農山漁村

農家人口1346万人 : 10%!!

東経154°

北緯20°

20° 25' N
136° 5' E
[東京都]

06年度～新体制

本委員会／70定年・2期4年／35名

被災集落支援計画小委員会／12

中山間地域組織小委員会／8

農山漁村景観保存小委員会／10

農村居住小委員会／5

集落共生デザイン小委員会／12

環境教育出版wg→07年度小委へ／14

田園空間計画小委員会／13

ラーバンデザイン出版wg

ルーラルネットWG

アジア農村フォーラムWG

被災集落支援計画小委員会／12

- ①中越、玄界島などの被災集落の復興計画、復興への支援
- ②被災地の調査、検討会、シンポジウムの開催

中山間地域組織小委員会／8

- ①中山間における地域支援型NPOを組み込んだ地域経営のあり方についての検討
- ②中山間におけるNPO参画に基づく地域経営計画論の提示

農山漁村景観保存小委員会／10

- ①文化的景観の保存・形成計画の先行事例検証
- ②文化的景観モデル事業の取材調査
- ③農山漁村における文化的景観の保全の主体と手法の検討

農村居住小委員会／5

- ①国土形成、国土管理、都市農村共生の視点から多様な農村居住の整理
- ②人口減少時代における農村の居住動向の把握と農村都市共生型居住の可能性の検討

集住共生デザイン小委員会／12

- ①持続可能な集落共生デザイン事例の調査・検討
- ②地域空間形成計画論の検討

田園空間計画小委員会／13

- ①農村・都市空間の持続可能な田園空間計画論の検討
- ②旧ラーバンデザイン小委員会の成果を刊行
→ラーバンデザイン出版WG

農村環境教育小委員会／14

科研「児童生徒の農的体験を通じた環境教育に関する研究」(平成11－13年度)の成果の出版企画
・06年度は集落共生デザイン小委員会に設置された環境教育出版WG→07年度は小委員会

主な活動1

Microsoft Internet Explorer

http://news-sv.aij.or.jp/nouson/s0/

AIJ 農村計画委員会

Rural Planning Committee

- 委員会組織の沿革・概要
- 委員会規程
- 委員
- 委員会議事録

- 大会関連
- 学術研究会関連
- 環境教育科研

- 委員会構成
- 各支部
- 関連リンク

- AIJ電子フォーラムへ
- シンポジウムなど
- メーリングリスト

- 刊行物など

- **日本建築学会**
- 日本都市計画学会
- 農村計画学会
- 日本造園学会

Copyright ©2000-2004 Architectural Institute of Japan/Rural Planning Committee
ご質問・ご意見は
ルーラルネットWG
shibata@nishitech.ac.jpまで

農村計画委員会

Rural Planning Committee

社団法人 日本建築学会

☆新着情報☆

- 建築雑誌05年2月号「今伝えたいトピックス」に掲載されました！
「集住の知恵－循環型社会の原理を読み解く」(pdf版)
- 20041211 委員長日より up!!!
★過去の委員長日より↑をクリック！

[過去の更新履歴→→→](#)

☆農村計画委員会関係の最新情報等ご希望の方は yoshito@kobe-u.ac.jp までお願いします！
☆みなさんのホームページをリンクして農村計画の情報が集まるページしたいと思います。
ホームページのURLやお問い合わせデータなどをメールで送って下さい！

農村計画委員会ホームページの充実

全国の会員&各地の農村計画メンバーとの研究交流

①地方で公開の研究会

②農村計画メンバーへのメイリングの充実

③ホームページの充実

ルーラルネットWG

委員長便り

■20080107	NO.19		
■20070519	NO.18	■20070330	NO.17
■20061122	NO.16	■20060811	NO.15
■20060525	NO.14	■20060404	NO.13
■20060105	NO.12	■20051007	NO.11
■20080826	NO.10	■20050725	NO.9
■20050510	NO.8	■20041211	NO.7
■20041124	NO.6	■20041012	NO.5
■20040921	NO.4	■20040703	NO.3
■20040512	NO.2	■20040410	NO.1

被災集落調査・復興計画支援

04年中越地震→05年緊急報告会

→農山漁村集落における自然災害復旧に関する特別研究(災害委員会と共同)

→中越復興シンポ→近畿大会協議会「中越地震」

→玄界島被災地調査・ワークショップ・シンポ

→06年日本建築学会技術部門設計競技「自然災害で居住地が甚大な被害を受けた農山漁村集落の再建計画」

→関東大会PD「自然災害で居住地が甚大な被害を受けた農山漁村集落の再建計画」

→玄界島復興調査&被災集落支援のあり方シンポ

→07年能登被災地調査&玄界島復興計画検証

→被災地調査・復興計画支援を08年度も引き続き進める

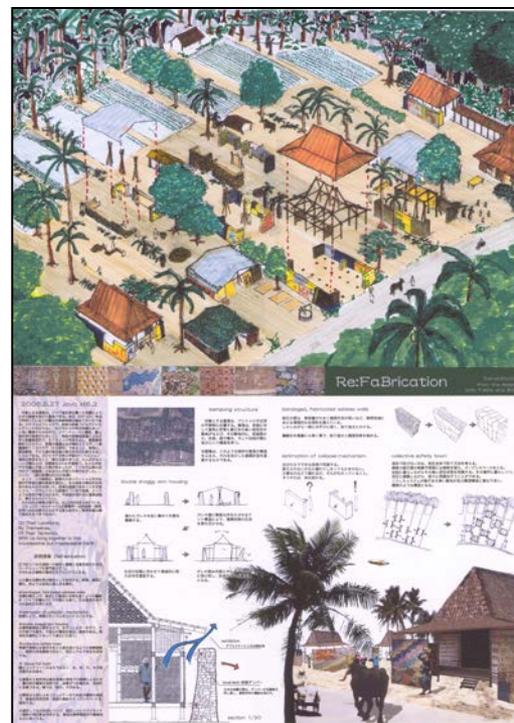
被災集落支援計画小十本委員会(+農村計画学会)

技術部門設計競技 「自然災害で居住地が甚大な被害を受けた 農山漁村集落の再建計画」

06年6月15日締切・45点応募(福岡県玄界島17点・新潟県中越地域18点・その他国内4点・国外2点)

最優秀賞1点(福岡県玄界島)・優秀賞2点(新潟県中越、ジャワ島)・佳作8点
(福岡県玄界島・3作品、新潟県中越・4作品、熊本県・1作品)

→06年度関東大会で入賞者を交えてPD開催



主な活動23



玄界島0802



能登半島0705・0709



被災集落支援計画小委を中心として
被災地調査+復興計画支援+公開研究会を継続

国土形成計画策定に向けて 日本建築学会農村計画委員会からの提案

05年国土形成計画法が公布

成熟社会型の計画を基本に、財政制約の中で道路、空港、港湾といった施設整備をどのように重点化するのか、どのような産業を育成していくのか、人口が減少する中山間地における農地や山林の荒廃の問題にどのように対応するのか、に焦点をあてた計画づくりがスタート

→日本建築学会での国土交通省と計画系学術調査委員会の懇談会で国土形成計画への提案を要請された

→農村計画本委＋各小委で検討開始＋中山間地域組織小委では公開研究会を開催

検討結果を集約し、06年7月に建築学会を通して国土交通省に提案

重点テーマ① 「安心して住み継げる故郷(くに)づくり」

- 方針1 多元的な自立地域社会の構築
- 方針2 地域コミュニティの再編と新たな地域自治組織の形成
- 方針3 複居住拠点をもつライフスタイルの社会的認知と支援
- 方針4 新たな市町村互助ネットの構築
- 方針5 地場産業空間としての農山漁村地域の活性化

重点テーマ② 「美しさを育む国土(くに)づくり」

- 方針1 農山漁村の景観資源の掘り起こしと保全・継承
- 方針2 生命循環環境としての農山漁村地域の保全
- 方針3 担い手の育成拡大と知の伝授
- 方針4 景観資源の育成と農山漁村の活性化

共通方針 施策展開のための行政システムの提案

農村計画ホームページ参照

主な活動33

07年度九州大会農村計画部門

PD:誰が守る九州の美しいむら
協議会:いかに美しい国土をつくるか

都市を活かした山村を活かす森林認証を
家づくりに

人材ネットワークを活かしたまちづくり情報
銀行と宮原好きネット

地域の営みを活性化させる参加型環境
建築

災害復興・玄界島は美しく復興できるか
中山間地域を支える新しい主体形成
景観形成・美しさの学び方・つくり方

いかに**美しい国土**をつくるか
誰が守る、九州の**美しいむら**

- 国土形成計画への農村計画分野からの展望 -

中山間地域組織小委 + 集落居住小委 + 農山漁村景観保存小委 農村計画委員会

日韓公開研究会

06年6月 「東アジアの集住文化と保存」

07年6月 「日韓の中山間地域における課題と展望」

韓国農村建築学会と農村計画委員会の交流は1991年に始まる

研究交流会→07年度より研究会へ、共通の課題について研究成果をもちより議論

2001：韓国・南部

2002：日本・九州

2003：韓国・清州

2004：日本・東北

2005：韓国・慶州

2006：日本・沖縄

2007：韓国・淳州

07年度日韓研究会

「日本における中山間地域の現状と課題」

「農漁村地域開発政策の流れ」

「中山間地域における過疎化現象と集落域の空間管理」

「中山間地域における農村民泊の実態と課題」

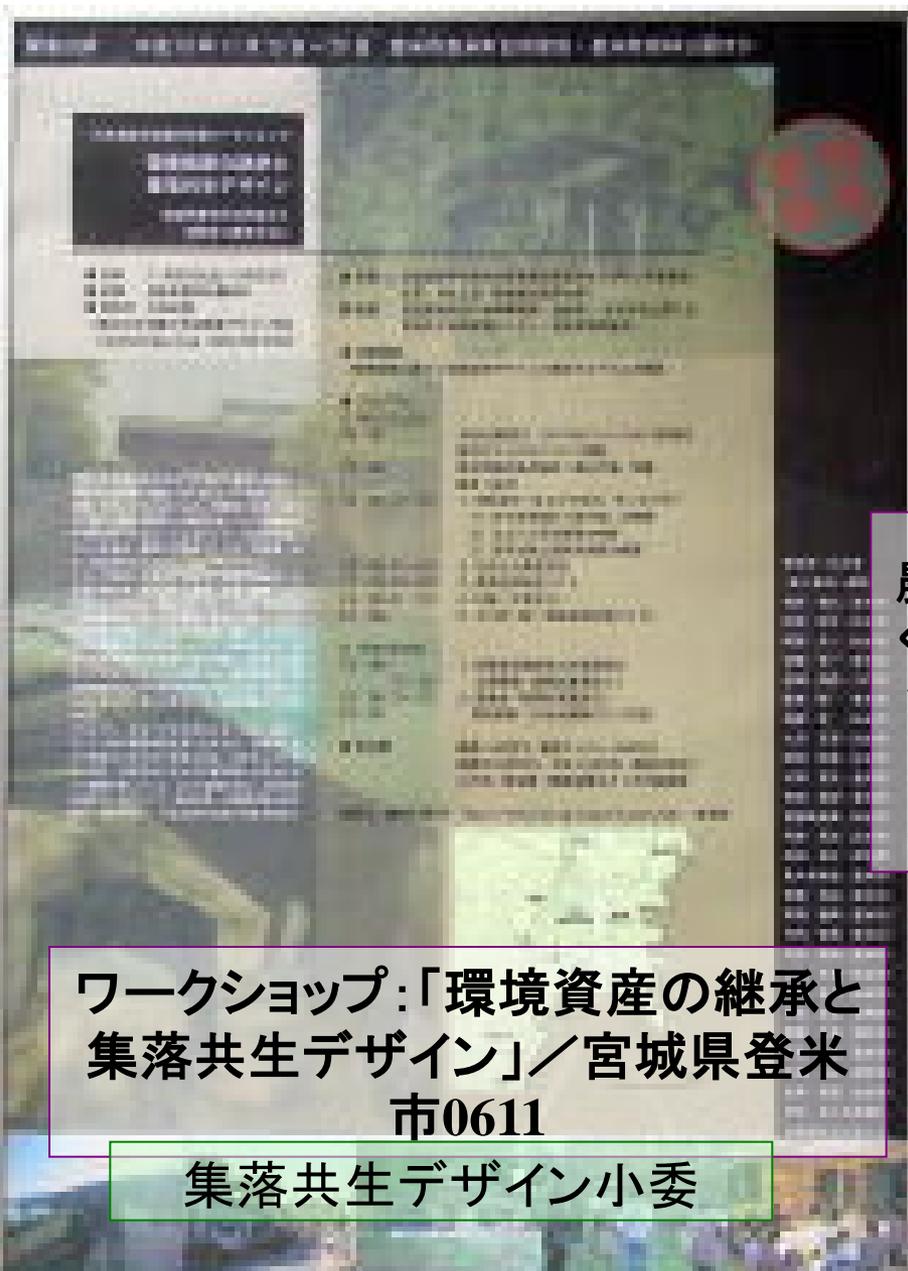
「韓国の1社1村運動」

「住民参加にもとづく農村計画過程とエコミュージアム概念の適用実験」

「五感体験・淳昌まちづくり」

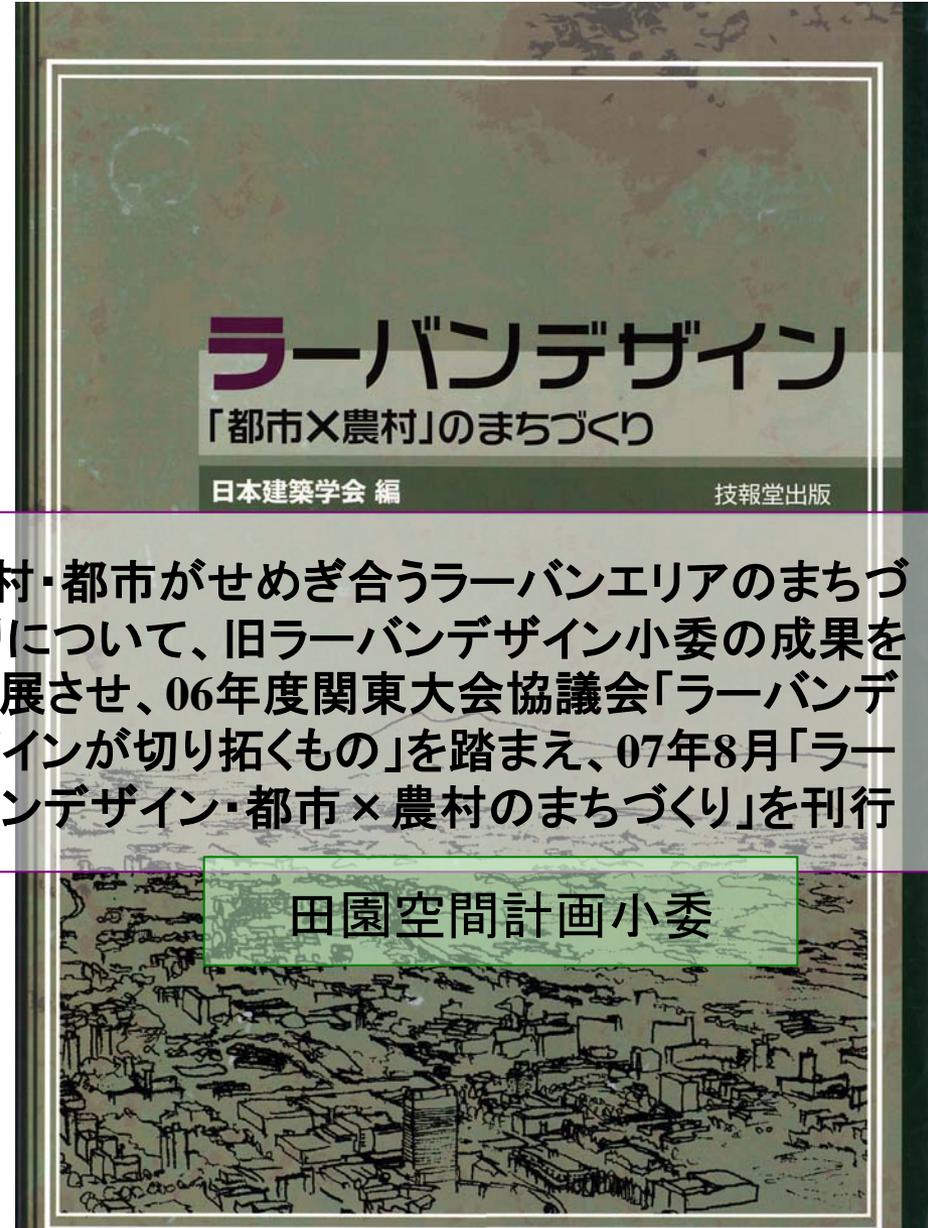


アジア農村フォーラムWG



ワークショップ:「環境資産の継承と
集落共生デザイン」／宮城県登米
市0611

集落共生デザイン小委



ラバーンデザイン

「都市×農村」のまちづくり

日本建築学会 編

技報堂出版

農村・都市がせめぎ合うラバーンエリアのまちづくりについて、旧ラバーンデザイン小委の成果を発展させ、06年度関東大会協議会「ラバーンデザインが切り拓くもの」を踏まえ、07年8月「ラバーンデザイン・都市×農村のまちづくり」を刊行

田園空間計画小委

農村計画研究の新しい動き

06年3月 そのⅢ ・ 07年3月 そのⅣ

学会会議室：本委＋関東支部農村建築専門委

若手研究者＝後継者の育成の一環として、近年学位を取得された若手に、学位論文の概要とその後の取り組みを紹介していただき、いま注目されている農村計画研究について意見を交換し、農村計画が目指すビジョンについて話し合う。

一押し発表の顕彰

若手研究者＝後継者の育成の一環として、大会発表梗概の各セッションから一押し発表を推薦しホームページで公開、顕彰する。あわせポスターセッションも農村計画ホームページに掲載している。

08年度～体制継続

08年3月に各小委員会の活動報告会を開催
議論のうえ活動のさらなる発展を目指し、継続

本委員会／70定年・2期4年ローテーション／35名

被災集落復興計画小委員会

中山間地域組織小委員会

農山漁村景観保存小委員会

農村居住小委員会

集落共生デザイン小委員会

田園空間計画小委員会

農村環境教育小委員会

+

ルーラルネットWG

アジア農村フォーラムWG

公募委員の拡充
若手の育成
地方での活動
会員・社会への還元